

環境経営レポート

2024年度

対象期間：2024年4月～2025年3月



発行日：2025年5月28日

1. 環境経営方針

＜基本理念＞

立山連峰から富山湾に至るまで、自然豊かな変に富んだ地形を持つ富山県に於いて、印刷事業を展開している協和カートン株式会社は、ますます深刻化する環境問題への対応を経営の重要課題と位置づけ、事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組めます。

＜環境保全への行動指針＞

1. 基本理念に基づき、事業活動に当たって環境に配慮し、環境保全活動を推進します。
2. 環境に関連する法規・条例を遵守し、環境保全に努めます。
3. 以下項目に対して、具体的な環境目標を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①電力・A重油の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ②廃棄物の削減。また、3R(減らす、再利用、再生利用)の推進
 - ③水資源の節約
 - ④有害な化学物質の削減
 - ⑤(自ら生産する)製品のロス率低減
4. この環境経営方針は全従業員に周知し、環境目標・活動計画を定め、定期的に評価を行い、継続的な改善に努めます。
5. 全社一丸となり、環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します

制定日:2021年1月5日

協和カートン株式会社

代表取締役社長 山下 英二

2. 組織の概要、対象範囲

(1) 事業者名及び代表者名

協和カートン株式会社
代表取締役社長 山下 英二

(2) 所在地

富山県富山市水橋開発277-5

(3) 環境管理責任者名及び担当者連絡先

責任者	管理部管理課課長	神田 裕也
担当者	管理部管理課	濱口 真広
連絡先	TEL	076-479-1188
	FAX	076-479-9101
	E-mail	kyowa01@ashi-pp.co.jp

(4) 事業内容

医薬品包装材料の製造
朝日印刷株式会社の子会社として、印刷～打抜～糊付まで一貫で行う
大型の生産設備や特殊対応の糊付機を有しております。

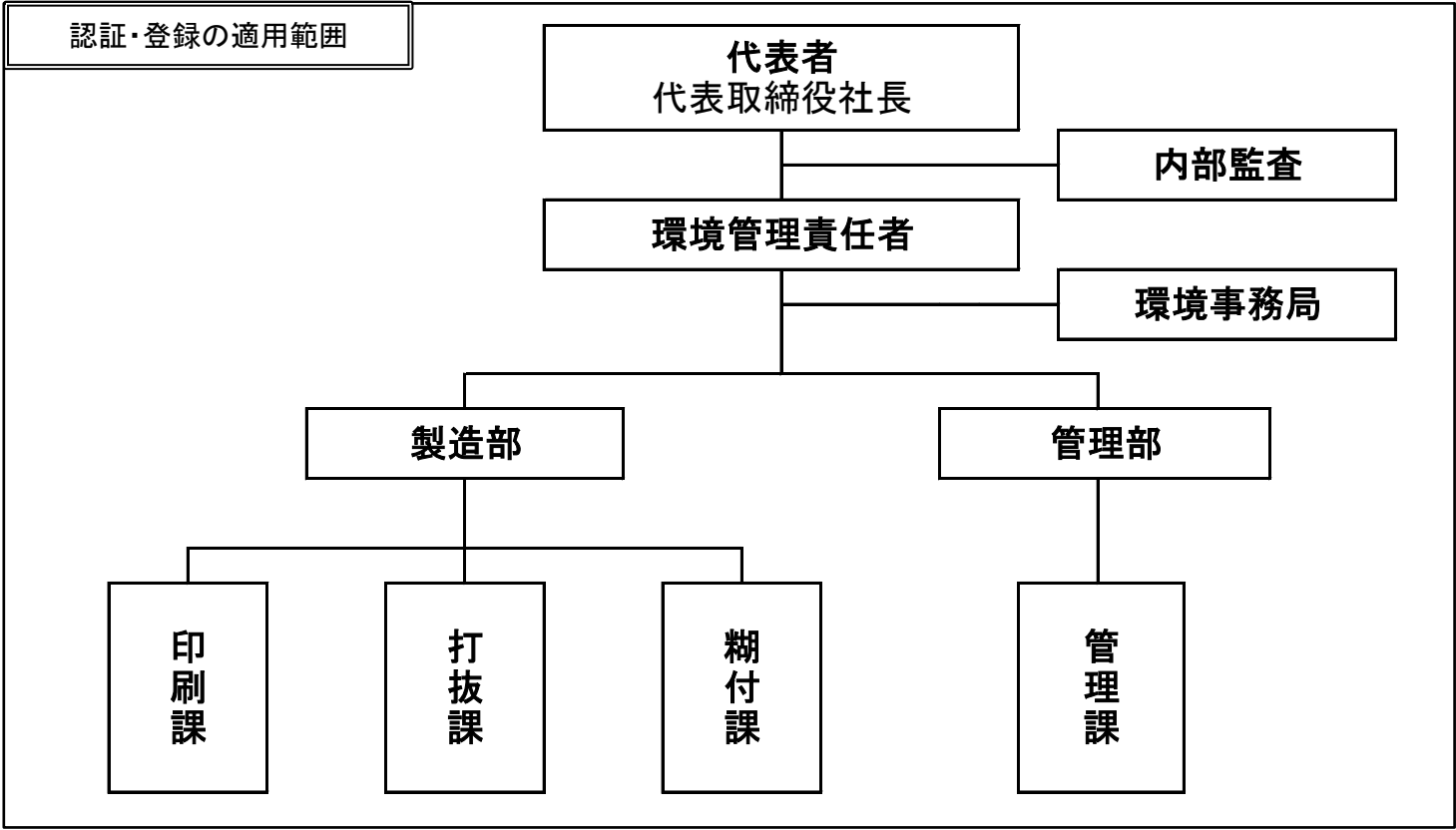
(5) 事業の規模

設立	1979年11月5日
資本金	2000万円
製品出荷額	2,000百万円(2024年度:2024年4月～2025年3月)
従業員数	110名
延べ床面積	7,137㎡

(6) 認証登録の対象組織・活動

登録組織名	協和カートン株式会社
活動	医薬品包装材料の製造

3.環境管理実施体制と主な役割



	役割 ・ 責任 ・ 権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規制等の要求事項登録簿を承認 ・環境活動実施計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者、EA21推進会議の事務局 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等取りまとめ表」の作成 ・環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 ・環境活動実施計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	・環境方針を理解し、環境活動への取組の重要性を自覚する。 ・EA21で決められたことに従い、自主的・積極的に環境保全活動へ参加

4.環境経営目標の達成状況及び計画の実施状況及びその評価(1)

【環境目標に対する実績と中期目標】

目標評価基準：○・・・目標達成 ×・・・目標未達

環境経営目標項目		単位	2019年度	2024年度			2025年度	2026年度	2027年度
			基準/実績	目標	対基準削減率 /実績	評価	削減率 /目標値	削減率 /目標値	削減率 /目標値
二酸化炭素排出量の削減	①【電力】使用量 ※1	kWh	2,606,413	5% 2,476,092	10% 2,336,581	○	11% 2,319,708	12% 2,293,643	13% 2,267,579
	②【燃料】使用量 ※1	L	52,112	60% 20,845	64% 18,800	○	65% 18,239	66% 17,718	67% 17,197
	①+② CO2総排出量 【電力】+【燃料】	kg-CO2	1,434,670		16% 1,211,103	○	17% 1,190,776	18% 1,176,429	19% 1,162,083
	・省エネルギー原単位 ※CO2総排出量/生産量	kg-CO2/ 千枚	34.4		1% 34.1 3% 33.3	○			
環境経営計画	項 目	取組み内容		計画の実施状況及びその評価			今後の取組み		
	①【電力】の削減 ・工場使用電力	- 電力デマンド制御システム - 照明のLED化 - 不要照明の消灯 - 工程ロスの削減		- 原単位は目標値をクリアしている。(対基準年97%、前年対比97%)。 - 印刷UV装置の稼働は多くなっているが、デマンド制御システムがエアコンの稼働を制御してくれるので異常値がでない効果は大きい。(起動設定値を安全側に変更) - LEDへの更新も計画通り進んでいる。 - 不要照明のこまめな消灯の従業員意識も定着した。 - 工場では無駄なく効率的な作業にシフトしてきている。 - A重油を使うプレス製品が少なくなったため燃料消費は抑えられている。			- 電力デマンド制御システム - 照明のLED化(全交換) - 工程ロスの削減		
	②【燃料】の削減 ・A重油(生産ボイラー用)他(ガソリン、軽油、LPG) (二酸化炭素排出量削減)	- 予定投入調整で無駄な待機時間を無くす - フォークリフト、社用車の急加速の抑制					予定投入調整で無駄な待機時間を無くす(夜勤稼働の抑制)		

環境経営目標項目		単位	2019年度	2024年度			2025年度	2026年度	2027年度
			基準/実績	目標	対基準削減率 /実績	評価	削減率 /目標値	削減率 /目標値	削減率 /目標値
廃棄物の削減	③【一般廃棄物】 ※オフィスMIX	t	10.43	95% 0.52	99% 0.06	○	99% 0.10	99% 0.10	99% 0.10
	④【産業廃棄物】	t	161.69	3% 156.84	-8% 174.98	×	1% 160.07	2% 158.46	3% 156.84
	③+④ 廃棄物排出量	t	172.12	1% 170.40	-2% 175.04	×	7% 160.18	8% 158.56	9% 156.94
環境経営計画	項 目	取組み内容		計画の実施状況及びその評価			今後の取組み		
	③【一般廃棄物】 の削減 (ボール 金銀) (オフィスミックス)	- 帳票類の見直し - ペーパーレス化 - 裏紙の使用		- ペーパーレス(電子化)の効果 - オフィスミックスについては裏紙使用をルール化し、継続して有効活用することで目標値を大きくクリアした。 - 一方で、産業廃棄物の量は目標値を下回った。仕事量に左右される為、工場で削減することは難しい。 - 金属くずの減容、廃アルカリ洗浄時の節水等、出来ることを徹底する。			ペーパーレス化推進(規定・標準類)		
	④【産業廃棄物】 の削減 (廃糊)(廃塗料)(廃インク) (廃プラスチック類)(汚泥)(廃蛍光灯)(金属屑)	- インキ投入量の一部見直しで削減 - LED化で通常蛍光灯廃棄を減らす					- 金属くずの減容の徹底 - 一次洗浄方法の順守徹底 - 洗浄水の新たな処分方法の模索		

4.環境経営目標の達成状況及び計画の実施状況及びその評価(2)

環境経営目標項目		単位	2019年度	2024年度			2025年度	2026年度	2027年度
			基準/実績	目標	対基準削減率 ／実績	評価	削減率 ／目標値	削減率 ／目標値	削減率 ／目標値
水 使用 量 の 削 減	⑤【上水】	m³	1,334	34% 880	41% 785	○	42% 774	43% 760	44% 747
	⑥【工業用水】	m³	10,513	45% 5,782	37% 6,648	×	37% 6,623	38% 6,518	39% 6,413
	⑤+⑥ 水使用量	m³	11,847	44% 6,663	37% 7,433	△	38% 7,397	39% 7,278	40% 7,160
環 境 経 営 計 画	項 目	取組み内容		計画の実施状況及びその評価			今後の取組み		
	⑤【上水】 使用量の削減	・節水運動（掲示・教育）		上水は目標値をクリアすることが出来た。 節水運動が少しずつ効果が表れているの か、次年度以降も経過観察をしていく。 工業用水は雪の日が多かったことで融雪 水の使用量が増えた。天候による変動は 制御できない為問題ないとする。また、 目標値を下げすぎたために目標未達と なっている。次年度は今年度を目標に削 減を意識していく。			・節水運動（掲示・教育）		
	⑥【工業用水】 使用量の削減	・プレス稼働時間の集約 ・屋根散水時間の制御 ・冬季融雪使用の制限 等					・プレス稼働時間の集約 ・屋根散水時間の制御 ・冬季融雪使用の制限		

環境経営目標項目		単位	2019年度	2024年度			2025年度	2026年度	2027年度
			基準/実績	目標	対基準削減率 /実績	評価	削減率 /目標値	削減率 /目標値	削減率 /目標値
・化学物質の削減 ※2		kg	374	-165% 990	-264% 1,361	×	1,309	1,309	1,309
環 境 経 営 計 画	項 目	取組み内容		計画の実施状況及びその評価			今後の取組み		
	⑦ 化学物質の削 減 【PRTR対象物質添加 品】 (プリントゾールRP)※2	・使用量の削減 ・SDS教育 ・代替品の検討		・PRTR法対象物質の入っている溶剤は1 点のみだが、代替品が見つからない。溶 剤種類を集約させたことで購入量が増え た形。 ・代替品が見つかるまでは、次年度以降 現状維持となる。			・使用量の把握 ・SDS教育 ・代替品の検討		

■ 自らが生産する製品・サービスの環境性能の向上

環境経営目標項目		単位	2019年度	2024年度			2025年度	2026年度	2027年度
			基準/実績	目標	対基準削減率 /実績	評価	削減率 /目標値	削減率 /目標値	削減率 /目標値
・ロス率の低減 ※3			6.72%	1.5% 6.62%	4.5% 6.42%	○	4.5% 6.42%	4.6% 6.41%	4.7% 6.40%
環 境 経 営 計 画	項 目	取組み内容		計画の実施状況及びその評価			今後の取組み		
	⑧【ロス率】の低減 (出荷数/仕上理論 数)	・各課方針に基づく展開 (立会フォロー教育) (勉強会の実施) (原因分析からの改善) ・会合での情報展開 (生産へのINPUT)		・高い目標値をクリアすることが出来た。 各課方針に基づく生産効率上昇の効果が 表れていると考える。 ・情報端末を利用した取組みで、トラブル を未然に防ぐことにも貢献できている。 ・非常に高い目標値を達成しており、次年 度以降も取り組みを継続していく。			・各課方針に基づく展開 (立会フォロー教育) (勉強会の実施) (原因分析からの改善) ・会合での情報展開 (生産へのINPUT)		

・CO2排出係数: 電力(2019年北電0.497)、ガソリン(2.32)、軽油(2.58)、A重油(2.71)、LPG(3.00)

・年度の期間は、4月1日～3月31日

※1: 燃料は、A重油・ガソリン・軽油・LPGのこと。生産に使用しているのは、ボイラーに使用しているA重油のみ。

※2: PRTR対象物質含有は、「プリントゾールRP」のみ: 1,3,5-トリメチルベンゼン(8.0%)、1,2,4-トリメチルベンゼン(28.0%)、クメン(1.7%)

現状は、代替品が見つかるまで低減できないため、節減教育のみの展開となる

※3: ロス率=(減耗+不良+限絶損+管理ロス)/生産投入量

5. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反・訴訟の有無

・「環境関連法規制及びその他要求事項一覧表」での定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。なお、関係当局からの違反等の指摘、訴訟は過去3年間ありません。

【環境関連法規制遵守状況・評価】

法規制等の名称	順守事項と適用事項	遵守評価		違反訴訟
		証拠	判定	
フロン排出抑制法	・定期点検:1年に1回以上等(専門業者が実施) ・簡易点検:3か月に1回以上 (業務用空調機、チラー)	点検記録	○	無
廃棄物処理法	・産業廃棄物の委託処理契約、マニフェスト管理 ・廃棄物の分別と保管基準(区画・表示等) (古紙、廃油、廃液、廃プラ、金属くず、汚泥 など)	許可証 契約書 マニフェスト	○	無
水質汚濁防止法	・特定施設(糊付)に係る、届け出。 ・排水分析	届け出	○	無
消防法	・少量危険物の貯蔵・取扱管理 ・消火設備などの設置・点検	点検記録	○	無
労働安全衛生法	・労働災害の防止対策の推進(安全管理者等選任) ・定期健康診断(特定含む)の実施 ・小型ボイラー定期点検(1年に1回定期自主点検) ・安全衛生委員会		○	無

6. 代表者による全体の評価と見直し

取組状況全体の評価			
◎システムが有効に機能しているか		適	
◎環境への取組の適切性		適	
見直しの必要性			
環境経営方針	なし	環境関連法規等	なし
環境経営目標	なし	環境実施体制	なし
環境活動計画	なし	その他	なし

【総括】

システムおよび取組の結果に対しては特筆する問題はありません。

個別項目の目標数値は過去からの対策や推移状況などを精査して修正してあります。

二酸化炭素総排出量で特に使用量の多い電気削減効率で基準年比較、16%の削減が来ています。

自社で、製品仕様や材料などの制御ができない部分は多いですが、環境への配慮の為に、決めた事はみんなで守り、良い工夫があれば実行し水平展開と歯止めを行い、小さな取組でも積み重ねて継続的に成果を出していきます。

以上